

研究代表者 所属・職：健康科学部・助教

氏 名：坂口 大史

研究課題名：クラシティの利活用と地域活性化まちづくりに関する研究

研究の目的

■本研究は、半田市の中心施設である「クラシティ」とその周辺敷地を一体的に捉えた、中心市街地活性化まちづくりに関する研究である。クラシティは、名鉄知多半田駅とも直結している半田市の中心的な施設であり、様々な利用者が利用する点で、半田市における重要な拠点の一つとして機能している。しかしながら、半田市の更なる中心市街地活性化に貢献できる可能性がありながらも、未整備のエリアや周辺施設との連携など潜在的な課題が依然として存在することが指摘される。

■本研究において周辺地域も対象にする理由として、クラシティの施設そのものとしての利活用のみならず、地域とどのように関わっていくべきかを分析・提案するため、施設と施設周りの敷地も一体的に研究対象地域に含めるべきであると考えたためである。本研究における研究の重点地区には、既存のクラシティと名鉄知多半田駅近辺とする。また、周辺対象地区は半田高校、半田農業高校、半田工業、MIM、赤レンガ建物など地区周辺に位置する既存建物を含むエリアである。重点地区における調査が中心であるが、調査を行う際に対象周辺地区含めて分析を行う。

■活性化における重要な視点として、クラシティは半田市における中心的な公共施設であり、商業エリアだけでなく、飲食や行政エリアなど様々な機能の入った複合的な建物であることから、半田市の活性化に資する可能性を秘めていると考えられる。また、クラシティは半田市の中心に位置し、名鉄知多半田駅から直結しているなどアクセスも良いことに加えて、半田市における主要施設も位置していることから、クラシティの敷地とその周辺地域を一体的に計画し

ていくことで、その魅力をより高めることができると考えられる。また、高架化される予定である JR 半田駅との接続も重要なテーマとなる。そこで、本研究では、将来的に半田市をより活性化させていくため、「クラシティ」の有効利活用に関する研究と周辺地区を含めた地域活性化案についての提案を行うことを目的とする。

プロジェクト目標の達成状況・成果内容

■プロジェクト目標の達成状況・成果内容として以下の3つを報告する。

■①クラシティに関するハードとソフト両視点からの具体的な提案

本研究において、クラシティの施設における空間分析、施設利用者の動線及び属性に関する分析を行った。それらの分析結果に基づいて、クラシティの施設の利活用や周辺敷地と連動する可能性、敷地周辺の既存施設との連携という視点から建築的な提案を行った。これらに加えて、クラシティの利用促進と更なる活性化を目指した仕組みづくりとしてソフト面からの提案を行った。

■②名鉄知多半田駅と JR 半田駅の間に生まれる空間を活用する仕組みづくり

クラシティに対する施設改修提案に加えて隣接している名鉄知多半田駅や JR 半田駅から人を引き込む仕組みを提案した。具体的には、高架化が予定されている JR 半田駅からそのまま遊歩道に接続することで、そのままクラシティに自然と誘引される動線を計画し、その先には市民が日常的に利用できる機能を備えた空間と憩いの場を創出することを提案した。

■③施設内の上下階及び周辺の既存施設との連動
クラシティの周辺には、複数の高校、図書館、ミツカンミュージアムなどのまちの核となる施

設が存在する。それらの施設と連動することで、日常的な市民の利用のみならず、休日の観光客が半田市の観光施設を訪問し、半田市でしか味わうことのできない空間体験を可能とする機能として「クラシティ」を提案した。また施設内の上下階の繋がりを生み出す仕組みも提案した。

■上記の成果について、2018年7月24日にクラシティにて市民向け発表会を開催し、報告を行った。

優れた成果があがった点

■本研究における提案は、クラシティの将来構想と利活用を合わせて考えるものであり、10年後やJR半田の高架化と一体的に構想していくことでより効果的になると考えられる。よって、いわゆる「特効薬」の性質は必ずしも備えていない。その一方で、本研究の成果を市民研究会で発表し、提案を展覧会という形で市民に向けて発信し、クラシティの利活用について新聞取材を受けるなど、学外に向けて提案を広く共有することで、多くの市民の関心を集めて議論を行うことができた。また、クラシティの3階にて、本研究の成果を展覧会という形で市民へ広く共有する機会を設けた。当初は2018年10月の1ヶ月を予定していたが、好評かつ反響が大きかったこともあり、11月末まで会期を延長するなど、市民にとっての議論の場として一定の成果も得られた。さらに、今回の研究を通じて、学生を中心とした若い世代がクラシティに関心を持ち、施設管理者や利用と共にクラシティの未来を構想することで、多世代交流が促進する機運が生まれた。こういった草の根的な活動は、地域活性化に必要不可欠なものであると考えられる。

研究期間終了後の今後の展望

■今後の展望として、「日常的な市民の活用を促す方策」と合わせてJR半田と名鉄知多半田の間の空間をどのように整備していくのかを具体的な

方策と共に検討する必要性を感じた。つまり、クラシティを単体として考えるのではなく、該当エリアを一体的に整備する必要性が指摘される。さらに、休日などには、様々なイベントがクラシティで開催され賑わいをみせる一方で、平日は銀行を利用する人が大半であり、施設全体が活用されておらず閑散しているのが現状である。よって、休日のイベント時の利用だけでなく、平日にも市民が気軽に足を運ぶことのできる仕組みづくりが急務である。このような点から、本研究で提案した既存施設との連動やコミュニティ機能を拡充していくことは、クラシティが抱える課題に一定の解答を示すものと考えられる。